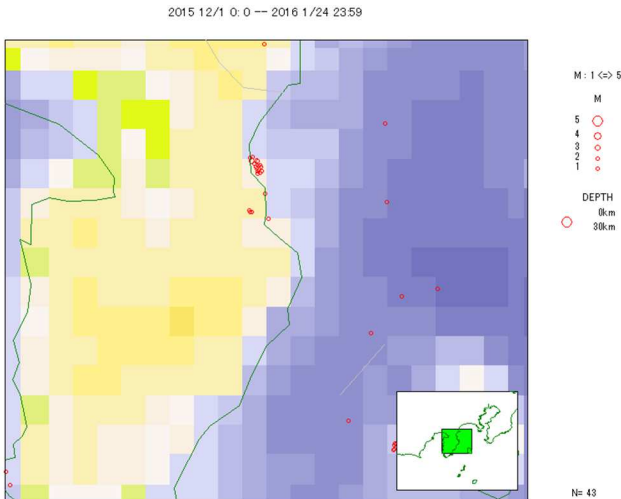


伊東沖で久しぶりに活動がありました

1月23日には伊東沖で1日に14個の地震が発生しました。規模は最大でもマグニチュード3.9で、最大震度3を観測しました。これ自体は大きな活動ではありません。静岡県ローカルのニュースにはなりましたが、ほとんどの方はご存知なかった事と思います。

問題は場所で、伊東市のすぐ目の前です。この伊東沖では1980年以降、長年火山性の群発地震が発生していた事を記憶されている方も多いのではないかと思います。1989年には伊東沖の手石海丘という所で海底火山の噴火があった事を覚えていらっしゃる方も多いのではないかと思います。この地震活動の原因は火山です。



1月23日からの活動（赤い丸が地震）



1989年の海底火山噴火（海上保安庁による）

伊東沖では、比較的規模の大きかった群発地震が83年、84年、87年、88年、89年、93年、95年、97年、98年と発生し、その後は2006年、09年に発生し、それ以降は静かな状態が続いていました。この所、東京湾内での活動など、311以降のパターンが変化し、日本列島の地下が新たな段階に入ったとも考えられます。

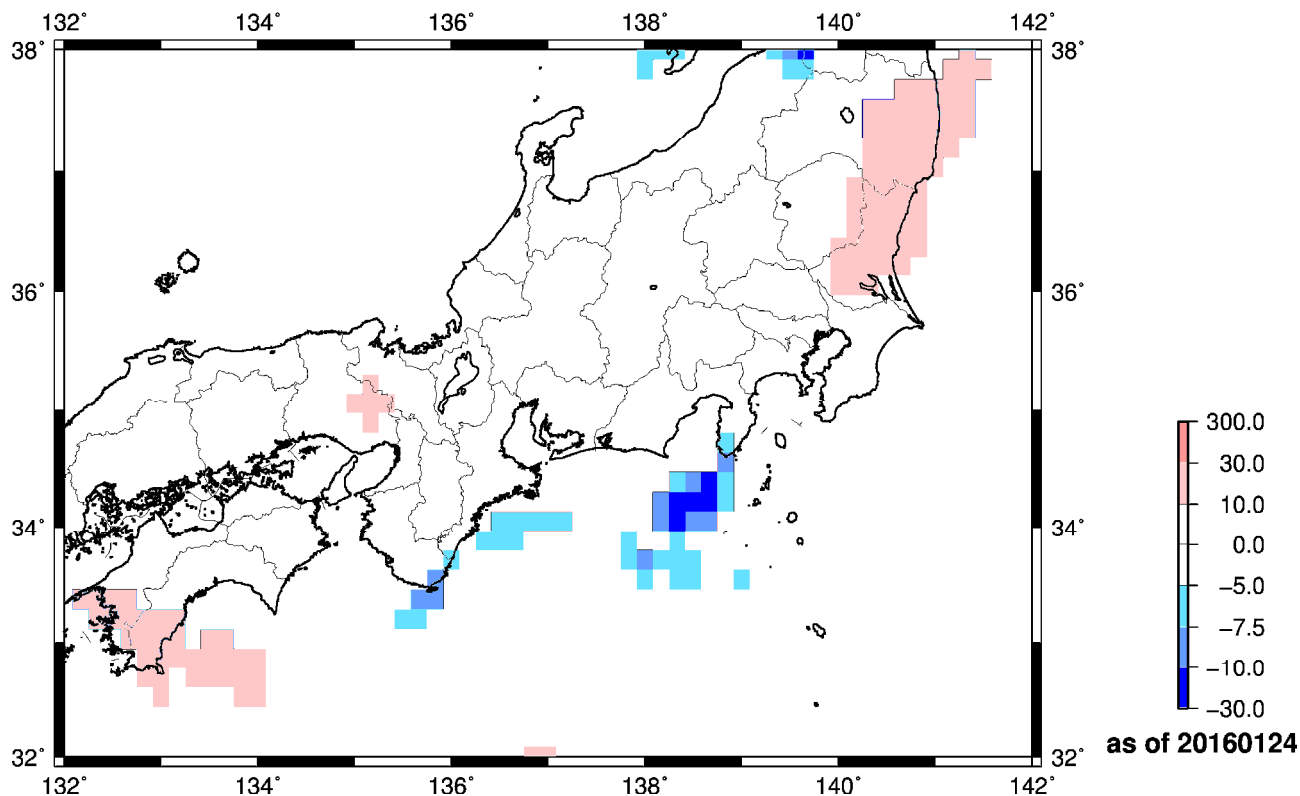


手石海丘の場所。伊東のすぐ沖に位置している

（静岡大学・小山氏のウェブから）

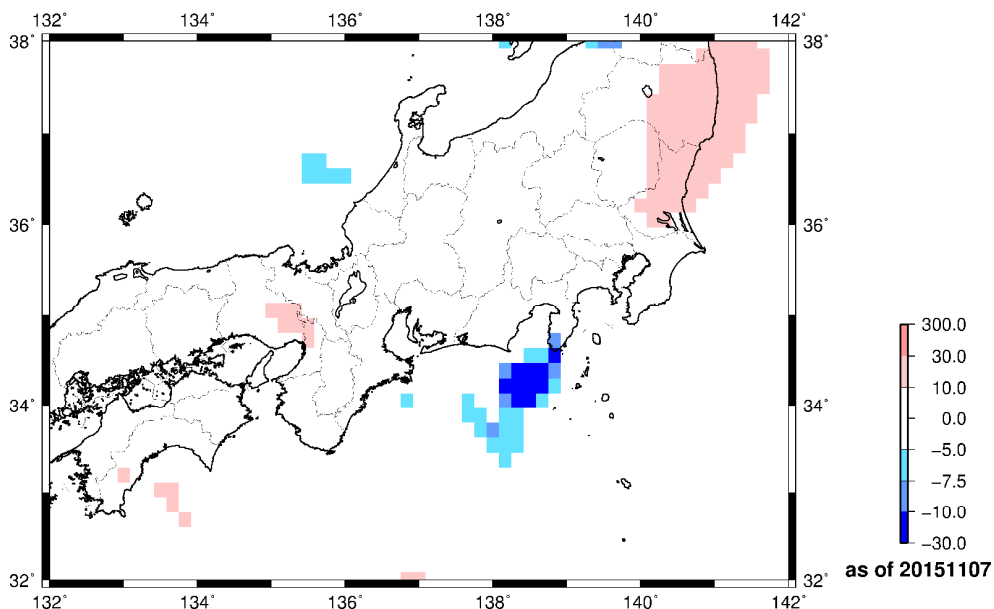
関東西部・東海・中部・北陸・関西地方の最新の地下天気図

今回は上記地域の最新の地下天気図です。



2016年1月24日時点の地下天気図。大きな異常

(青色の領域：静穏化領域)は確認できない



前回(11月)の地下天気図

現状において、地下天気図の解析では、関東地方西部以西(中国・四国地方を含む)にはM7クラスの発生を予想されるような顕著な地震活動の異常は観測されていません。東海沖の異常は形が悪く(細長い)、真の異常ではないと考えています。